

令和5年12月6日

## アンケート調査結果報告

令和5年度 甲府市小中学校PTA連合会  
企画調査委員会

今年度、当委員会では下記の3項目に關しまして加盟連の38校のご協力をいただきまして、各校の「安心メール」を利用して10,219世帯に調査を行いました。  
回答の回収は3,369世帯(32.9%)よりご回答をいただくことができました。

### 【アンケート項目と目的】

#### 1. 家庭での性教育について

子供たちが「性」についての正しい知識を身に付け、自分のことも、相手のことも尊重することや自分の身を自分で守ることを、保護者や学校から子供達に伝えていくために、今、各ご家庭で「性教育」についてどのような関わりを持っているか知りたいという現状認識と今後の課題について共有をしたく実施しました。

#### 2. 保護者の経済的負担が軽減される為に望むこと

現在各御家庭で、子供の『教育資金』において、保護者がどのような事象に資金負担を感じているかを調査目的として実施しました。

#### 3. 携帯端末等に関する実態調査

昨年度は子供のパソコン・スマートフォンなどによるネット活用に関するアンケートを実施させていただきました。今年度は更に、各御家庭の携帯端末の活用やトラブルなどについて調査を行い、携帯端末について如何に適正に使用させていくのかを実態調査をもとに共有をしたく実施させていただきました。

## 【アンケート調査結果】

※ 個別に別紙参照

### 【調査結果より課題や提言】

#### 1. 家庭での性教育について

「各家庭での性教育の実態」がかなり明確になった上にプラスして浮き彫りになったこともあります。それは、正解のない性教育について、かなり様々に考えがあり各家庭で違いや差はあれど、多くの保護者が「学校での充実した性教育を望んでいる」ということです。愛する子供たちが迷わないようにやはり学校、そして家庭（地域）が一体となり、「性教育」にも取り組んで行くことが課題ではないかと感じました。

そして、みんな人生は一回です。子供たちの輝かしい将来の為に自分と相手を守れるように経験と知識を授けられる“大人”でありたいと思えます。

#### 2. 保護者の経済的負担が軽減される為に望むこと

トップの2項目では、「単年度しか使わない教材の自費購入」と、他の一部市町村では給食費の「全額公費負担」になっているにもかかわらず、甲府市では給食費の「自己負担」が発生している点が挙げられた。この2点に関しては多くの家庭で負担を感じている様子である。

一方で、PTAの会費や活動に関する意見も寄せられ、PTAへの課題も垣間見える。

#### 3. 携帯端末等に関する実態調査

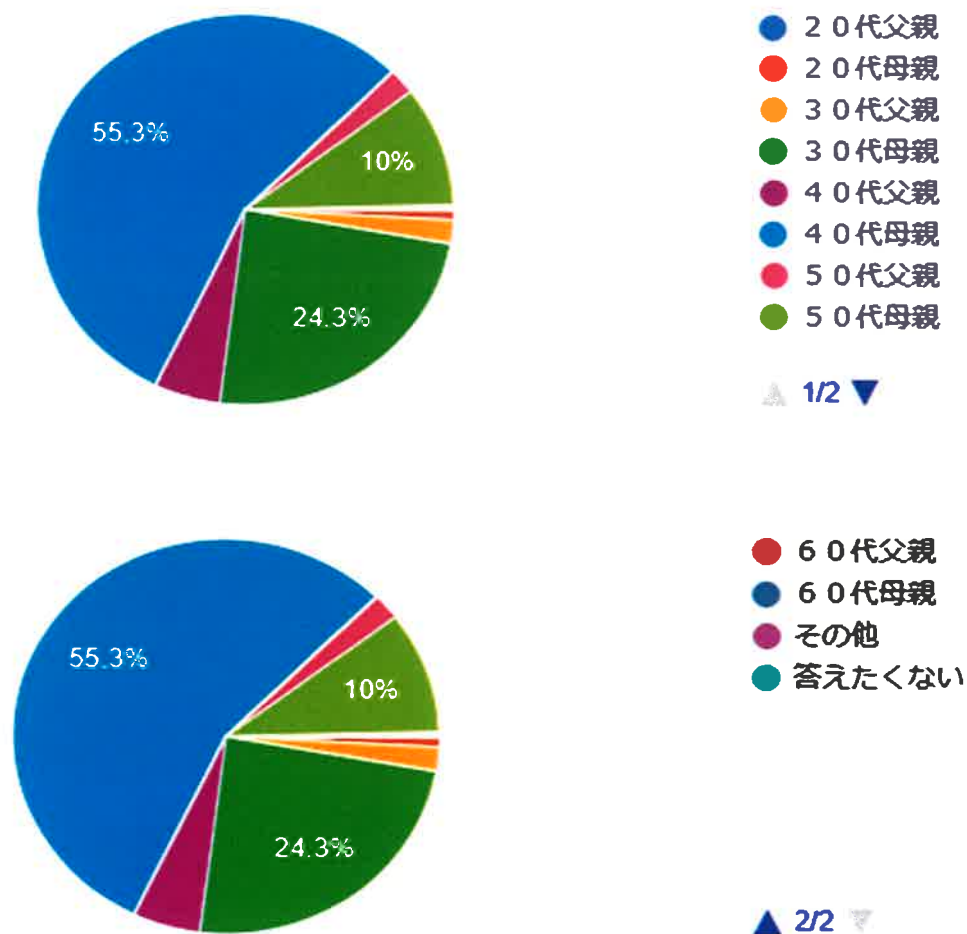
時代背景からも、今後はより低年齢の子供までもが所持していくことが見込まれる。また所持するタイミングや使用ルール等は各家庭で様々であり、現段階で既に発生しているトラブル等を元に、各家庭や学校教育を通して子供たちが事件・事故に巻き込まれないように私たち大人が見本となって「携帯端末の正しい使用に慣れる」ようにしてあげたいものである。

以上

## 『家庭での性教育について』

このアンケートは「性」についての正しい知識を身に付け、自分のことも、相手のことも尊重することや年齢に関係なく自分の身を自分で守ることを子ども達に伝えていくために、今、各ご家庭で「性教育」についてどのような意識を持っているか知りたいという思いから行いました。アンケートにお答えいただいた方それぞれ、「性教育」の捉え方や感じ方が多様であることを踏まえ、今回は「命と性に関すること」について子ども達へどのような教育をし、意識を持っているかお答えいただきました。

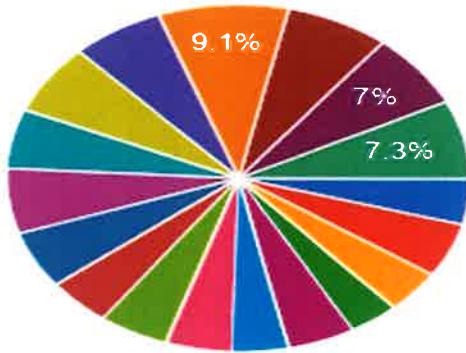
(1) このアンケートにご回答されている方の続柄と年代を教えてください。



\*40代母親が一番多く、次いで30代母親。そして50代母親という結果になりました。

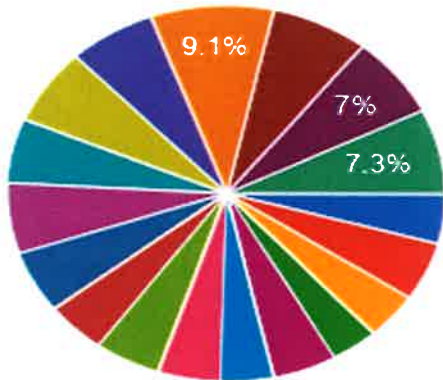
(2)お子様の学年と性別を教えてください。

兄弟姉妹がいる場合は、小中学校に在籍する一番上のお子様を対象としてご回答ください。



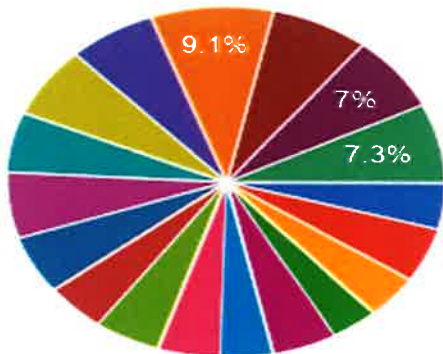
- 小学校1年男
- 小学校1年女
- 小学校2年男
- 小学校2年女
- 小学校3年男
- 小学校3年女
- 小学校4年男
- 小学校4年女

▲ 1/3 ▼



- 小学校5年男
- 小学校5年女
- 小学校6年男
- 小学校6年女
- 中学校1年男
- 中学校1年女
- 中学校2年男
- 中学校2年女

▲ 2/3 ▼

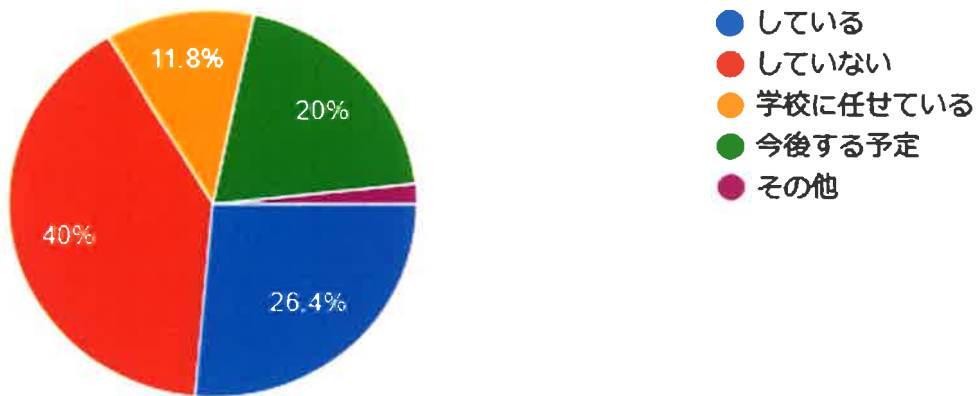


- 中学校3年男
- 中学校3年女

▲ 3/3 ▼

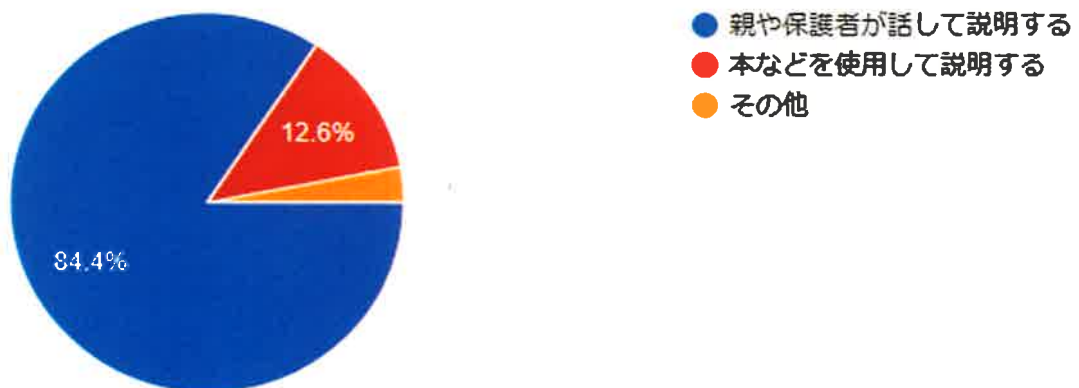
\*小学校2年男子の親御様が一番多く、次いで小学校4年女子。そして小学校3年男子という結果になりました。

(3) ご家庭で、お子様に性教育（性に関する話や性に関する指導等）をしていますか？  
兄弟姉妹がいる場合は小中学校に在籍する一番上のお子様を対象としてご回答ください。



\* 「していない」が40%と一番多く、次いで「している」が26.4%。そして「今後する予定」が20%、11.8%が「学校に任せている」という結果になりました。

(4) 上記(3)で「している」と回答した方にお聞きします。それはどのような方法でしていますか？



\* 「親や保護者が話して説明する」が84.4%とダントツに多く、次いで「本などを使用して説明する」という結果になりました。

(5) 上記(4)で「本などを使用して説明」と回答した方にお聞きします。使用した書籍名等をお聞かせください。

【書籍名】

- ・おうち性教育はじめます
- ・13歳までに伝えたい女の子の心と体のこと
- ・性の絵本
- ・赤ちゃんはどこからくるの？
- ・だいじ だいじ どこだ
- ・いいタッチわるいタッチ
- ・ぼくどこからきたの？
- ・あっ！そうなんだ！性と生
- ・赤ちゃんはどこからくるの？親子で学ぶはじめての性教育
- ・ぼくのはなし
- ・おちんちんのえほん
- ・オトコの子の「性」

など

(6) 上記(4)で「その他」と回答した方にお聞きします。\*具体的に内容をお答えください

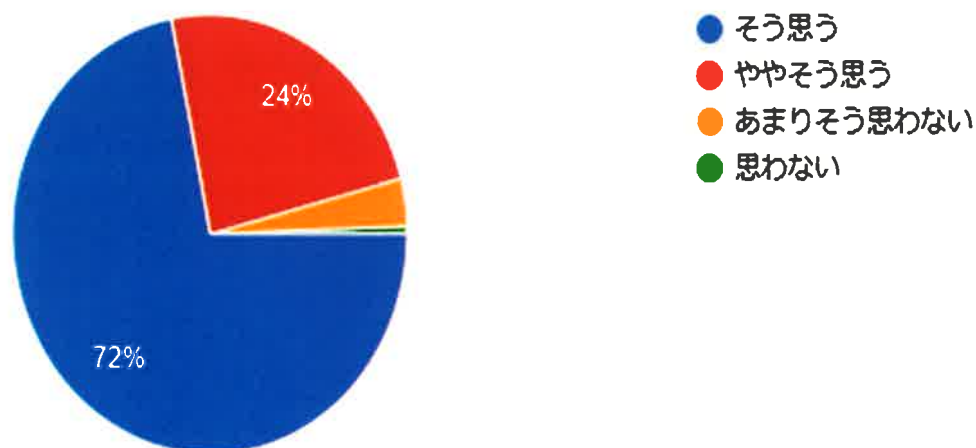
- ・質問されたら答えている。
- ・子供が幼少期の頃から、私が生理の時に「いずれ来る」こと、何故出血があるのか等を話してきた。
- ・生理の時、出産の話はする。恋人が出来たら「話すことがある」と言っている。
- ・お風呂に入った時に身体の変化や気をつけること等を伝えている。
- ・幼い時から絵本など読みながら、性の違いや自分も自分以外の人も大切にする事。また、ニュースなどで見聞きする性について包み隠さず、答えるようにしている。
- ・話の流れでそういった話題が出たら、ある程度話す。「男子は女子に優しく紳士であれ」と、「女子は男を見る目を養え」、責任ある行動をとるようにと教えている。
- ・水着で覆う部分は家族以外に見せない触らせない。
- ・母親に任せている。
- ・YouTube。

- ・性教育の本を渡して「何か分からないことがあったら質問してね」と伝えた。
- ・薬局の生理用品コーナーや避妊具コーナーを通ったついでに。
- ・まだ「性教育」としてなのか「防犯」として伝えたことがある程度
- ・性加害問題などニュースや特集番組が流れた時に話をする。
- ・親からではなく姉妹から説明してもらった。
- ・クリニックの性教育セミナーに参加させた。
- ・子供が6、7歳の頃は本を見せて一緒に読んでいたが、最近はしていない。9歳くらいだったか、絵を見て「気持ち悪い。なにこれ。」と言っていた。もっと小さい頃から読み聞かせておけば良かった。遅かった。

など

\*実に多種多様な意見を頂戴しました。各家庭に寄って「性教育」というものに対する意識が如何に違うかが浮き彫りになりました。何もしていない。本を渡すだけ。という家庭もあれば幼い頃から意識して教えている家庭も。「性教育に正解なし」なのではないでしょうか・・・

(7) お子様に性教育（性に関する話や性に関する指導等）が必要だと感じますか？



\*72%が「そう思う（性教育が必要）」と一番多く、次いで「ややそう思う」が24%という結果になりました。

(8) (7) でご回答していただいたそれぞれの理由をお答えください。

◇そう思う（性教育が必要）

- ・大切なことだから
- ・正しい知識が必要だから
- ・自分を守る為
- ・将来の為
- ・望まない妊娠を防ぐ為
- ・間違った情報を鵜呑みにしない為
- ・犯罪などが増えているから
- ・妊娠の低年齢化
- ・大人になって行くために必要だから
- ・身を守る、自分を大切にする、相手を大切にするという観点から性教育は必要と考えます。ジャニーズ・中学校校長・塾講師など、教育者による性加害の被害者は小学校～中学校までの性についての知識の乏しい子供たちです。以前、NHK 特集で修学旅行中の教育者による性被害がありました。性についての知識の乏しい子供たちは性被害に遭ったことにその場では気付くことが出来ず、多くは大人になってから気付き苦しむそうです。子供を守る為に性教育が必要だと考えています。
- ・性はいけないことではありません。隠すより正しい知識と判断力が必要です。
- ・望まない妊娠を無くすために、具体的にどうしたら子供が出来るのか、どうやって回避するのかを分かりやすく教える必要がある。けれど、それを親から伝えるのは難しい。外部の講師やお医者さんと呼んだり、第三者から伝えてもらうのがいいと思う。

など

◇あまりそう思わない・思わない

- ・なんとなく
- ・まだ早いと思う
- ・特になし
- ・学校で話をしてくれたら、家庭での負担が少しでも減る為
- ・年齢ごとに必要な性の情報は異なるので

など

\*そう思う（性教育が必要）と答えた中の多くの保護者の方たちが「正しい知識が必要」「自分と相手を守る為」「将来の為」と考えておられるようです。一方、あまりそう思わない・思わないと答えられた方たちは「まだ早い」「学校に任せたい」との声も目立ちました。



性教育とは難しいものかもしれません。責任があるのは分かっている親だって人の子。誰かに頼りたくなるのも仕方ないのかもしれない

(9) 性教育について学校や市P連に望むことがありますか？あればお書きください。

- ・特になし
- ・わからない
- ・今まで通りが良い
- ・専門の先生による講演会
- ・子供たちが恥ずかしくなく聞ける程度の内容が理想
- ・学校でもちゃんと性教育の授業を行って欲しい。それにより、家庭でも話すキッカケにもなるからです
- ・子供が性被害者にも加害者にもならない様な性教育を
- ・積極的に踏み込んだ教育をしていただき、恥ずかしいことではなく、当たり前のことだと知って欲しい
- ・親世代の私たちが性教育を全く受けておらず、子供とどう関わっていいのか分からないのが現状です。親子でとか、何か子供と話しやすいキッカケが欲しい
- ・性教育の時間を長い時間とって欲しい
- ・遠回しに教えるのではなく、真面目に教育していただけますと良いと思います。エイズのリスクや避妊に失敗しても、特効薬やピルなど色々出て来てはいますが、まずは女性を大切にすることをしっかり教育していただけますと良いと思います。男性の欲望を抑えられない行為が女性の一生を台無しにします。
- ・実際に性についての認識の甘さから失敗された話などを聞ける機会などあれば良い
- ・授業時間が少ない中難しいとは思いますが、男女の身体の仕組みや子供が出来るということなど、「勉強」として教えてもらいたい
- ・学校の保健体育の内容では実際に生きて行く上で必要な情報提供が不十分だと思う
- ・家庭では何が正しい情報なのか見極めて子供に伝えるのが難しい。学校などで積極的に性について知る取り組みを実施してもらいたい。  
共通認識も必要だと思う
- ・シングルマザー家庭の男子には男性教員が。シングルファーザー家庭の女子には女性教員が教えて欲しい
- ・男女ともに異性への関心が高まる年頃でもあるので、性について「触れてはいけないもの」「いやらしいもの」「気まずい」などのイメージで誰にも訊けず過ごしてしまうことが恐ろしいです
- ・まだ男女別の指導があるならばやめて欲しい
- ・一度だけでなく、年齢によって受け取り方が変わって来ると思うので数回必要だと思います

- ・最近教育者の性犯罪が目立っている。信頼している人からの裏切りは子供たちを酷く傷つけます。その為には家庭・学校でしっかりと性教育。(セックス・コンドームについてまで具体的に) SNSでのあり方、やり取り、プライベートゾーンをしっかりと守ること。などなど恥ずかしいことではないということから、しっかり教えるべきです。先生方、子供たちにセックスについて教えられますか？
- ・興味本位での性行為がどの様にマイナスなのか、かなり濃い内容で伝えて欲しい
- ・セックスのやり方、誰が教えてくれるのですか？今の時代、簡単にネットで検索できますが、それが偏った知識になるのが一番恐ろしいです。実際にリアルに人と付き合う、結婚する、子供を育てるなどに消極的な子供が増えているそうです。日本の少子化問題もそこから変えないと変わらないと思います

など

\*性教育について学校や市 P 連に望むことがある保護者の皆様は多いようです。「家庭で性教育をしている」のは26.4%なので、当然の結果かもしれません。「出来ないけど必要なのは分かっている」。我が子の事を思えばこそ学校や市 P 連への要望は強いと感じました。

「専門の講師を呼んで欲しい」「家では難しいから学校での教えをキッカケに家庭でも話したい」「かなり濃い内容でしっかり」

「自分たちは満足な性教育をされなかったから、子供たちには時間をかけて教えて欲しい」などの意見が多く、まとめている私の胸にも強く突き刺さって来ました。

## (まとめ)

まずは今回アンケートに御協力下さった多くの保護者の皆様に御礼申し上げます。今回により委員会が知りたかった「各家庭での性教育の実態」がかなり明確になった上にプラスして浮き彫りになったこともあります。それは、正解のない性教育について、かなり様々に考えがあり家庭で違いや差はあれど、「多くの保護者が学校での充実した性教育を望んでいる」ということです。愛する子供たちが迷わないようにやはり学校、そして家庭・(地域)が一体となり、性教育にも取り組んで行くことが大事だと感じました。

人生は一回です。子供たちの輝かしい将来の為に自分と相手を守れるように経験と知識を授けられる大人でありたいです。(企画調査委員会)

## 『保護者の経済的負担が軽減される為に望むこと』

このアンケートは教育資金において、保護者がどのようなものに負担を感じているかを知るために行った調査です。この調査が行政等（甲府市並びに甲府市教育委員会等）への陳謝等に直接つながるものではありませんので、ご理解の程お願い致します。

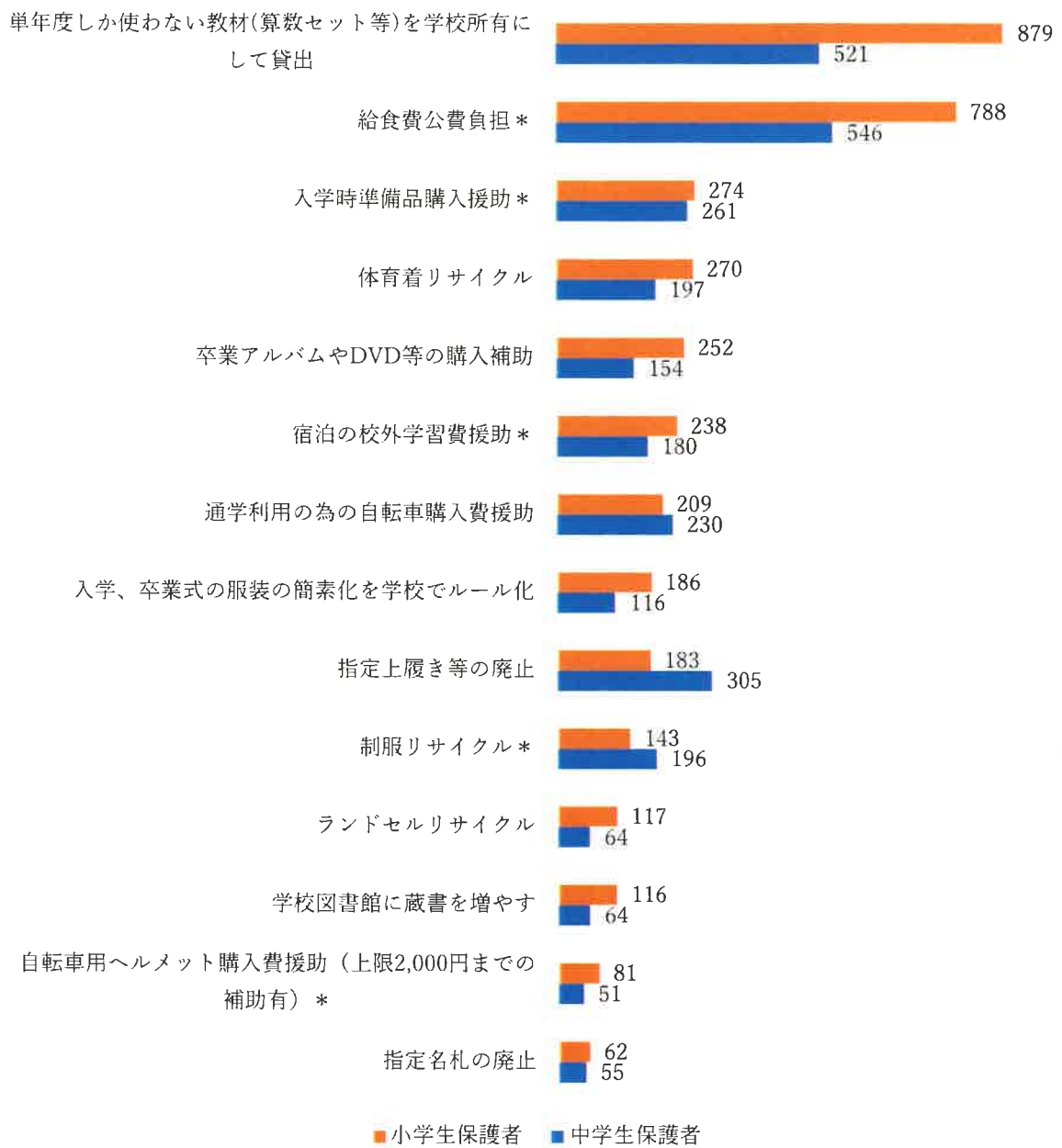
### 1, アンケート内容

(1) 保護者の経済的負担軽減される為に望むもの下記より2項目を選んでいただきました。

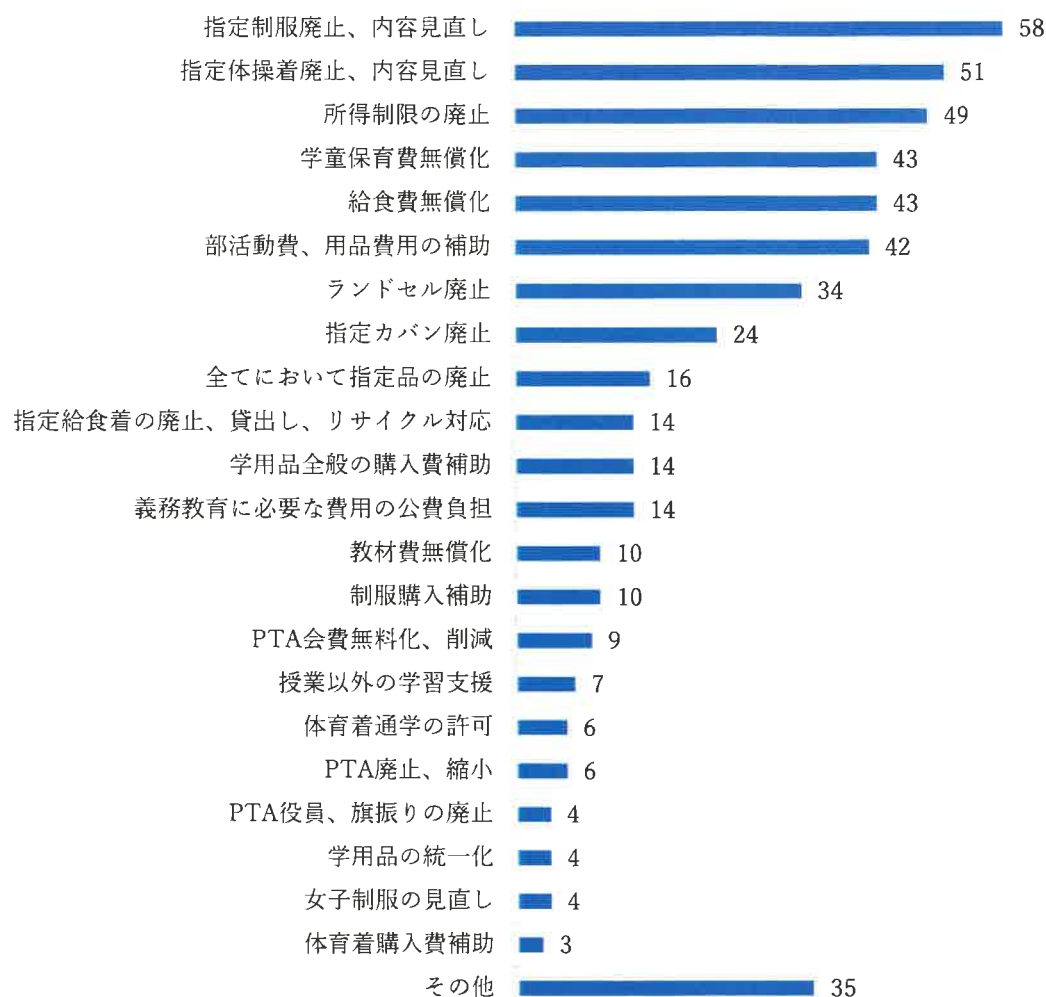
※「\*」の印が付いている項目は甲府市等で既に補助金交付が実施されています。給食費や校外学習費等もひとり親家庭や低所得家庭、生活保護家庭は援助や免除があります。また、体育着についても学校やPTAでリサイクルが行われている学校もあります。

- ・体育着リサイクル
- ・ランドセルリサイクル
- ・指定上履き等の廃止
- ・指定名札の廃止
- ・入学、卒業式の服装の簡素化を学校でルール化
- ・卒業アルバムやDVD等の購入補助
- ・通学利用の為に自転車購入費援助
- ・単年度しか使わない教材（算数セット等）を学校所有にして貸出
- ・学校図書館に蔵書を増やす
- ・給食費公費負担\*
- ・制服リサイクル\*
- ・入学時準備品購入援助\*
- ・自転車用ヘルメット購入費援助（上限2,000円までの補助有）\*
- ・宿泊の校外学習費援助\*

[グラフ1：保護者の経済的負担軽減される為に望むもの2項目]



[グラフ 2, 上記の他に保護者の経済的負担軽減される為に希望される項目]



## 2, 結果

(1) 保護者の経済的負担軽減される為に望むもの2項目では、下記の結果 [グラフ 1] より、「単年度しか使わない教材の貸出し」「給食費公費負担」の2項目で小学生保護者では40%以上、中学生保護者では35%以上を占めた。次いで、中学生保護者の「指定上履き等の廃止」を選択する方が多かった。

(2) 上記の他に保護者の経済的負担軽減される為に希望される項目。

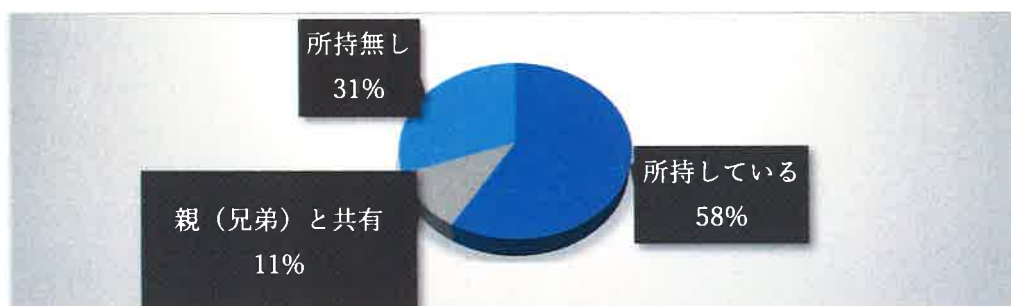
上記(1)の他に保護者の経済的負担軽減される為に希望される項目では、下記の結果 [グラフ 2] より、「指定制服の廃止、見直し」「指定体育着の廃止、見直し」を挙げる方が多く全体の21%となった。次いで「所得制限の廃止」「学童保育費無償化」「給食費無償化」が多数挙げられた。また、PTAにおいては「会費の削減」「役員や旗振りの仕事への負担」が挙げられた。

## 『携帯端末等に関する実態調査』

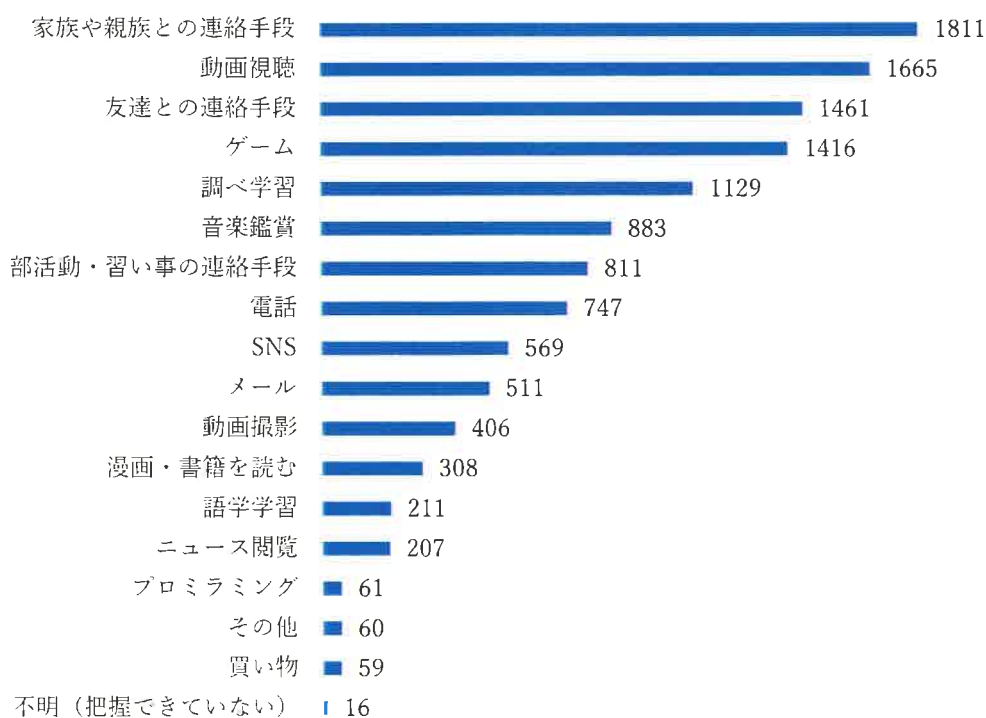
昨年度は子どものパソコン・スマートフォンなどによるネット活用に関するアンケートを実施しましたが、今年度は各家庭の携帯端末の活用や実際に発生したトラブル等をご案内させていただくと共に、各家庭で課題に思っていることをお知らせさせていただきます。

(ここで言う携帯端末等とはスマートフォン・タブレット・通信可能な携帯ゲーム機全般をさします。学校から貸与されている GIGA スクール構想の児童生徒一人一台端末は除く)

### 1, 専用の携帯端末の所持率について



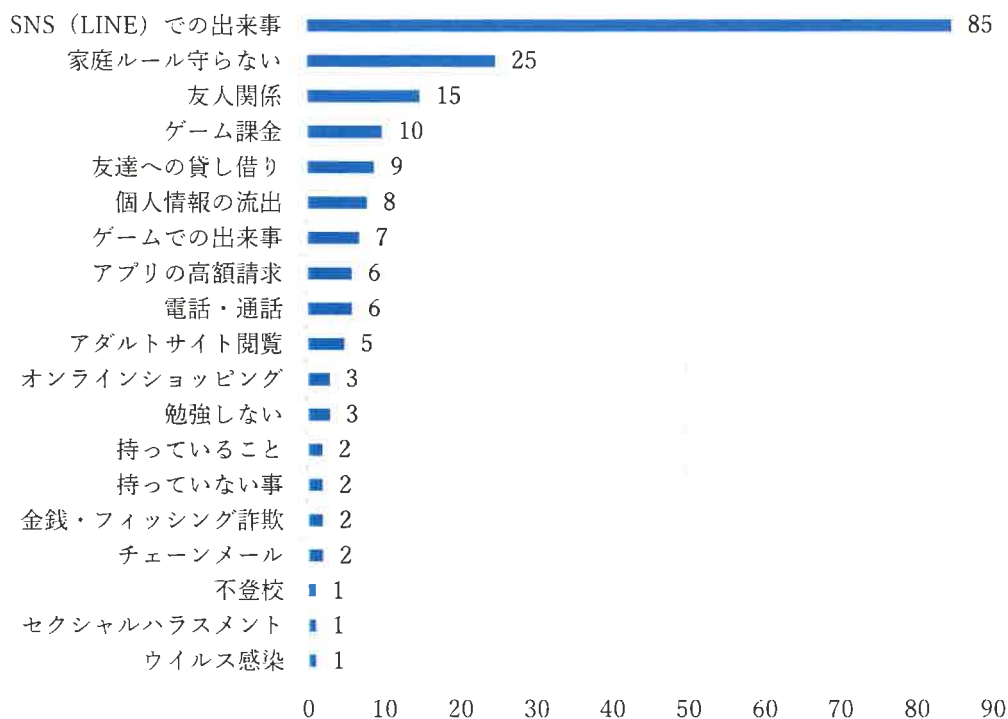
### 2, 「所持している」「親(兄弟)と共有している」方々の活用状況について 主に活用している2項目を挙げていただきました。



### 3. トラブルについて

「トラブルにあった」との回答は全体の7.6%（193件）であり、9割超の家庭では「トラブルが起きていない」との回答であった。

発生したトラブルの主な内容は次の通りです。



上記の結果より、半数近くが「SNS（LINE含）での出来事」が多い結果となった。その中でも「友達・グループ間でのいざこざ」「画像（動画）の拡散」などによりトラブルとなった意見が多かった。

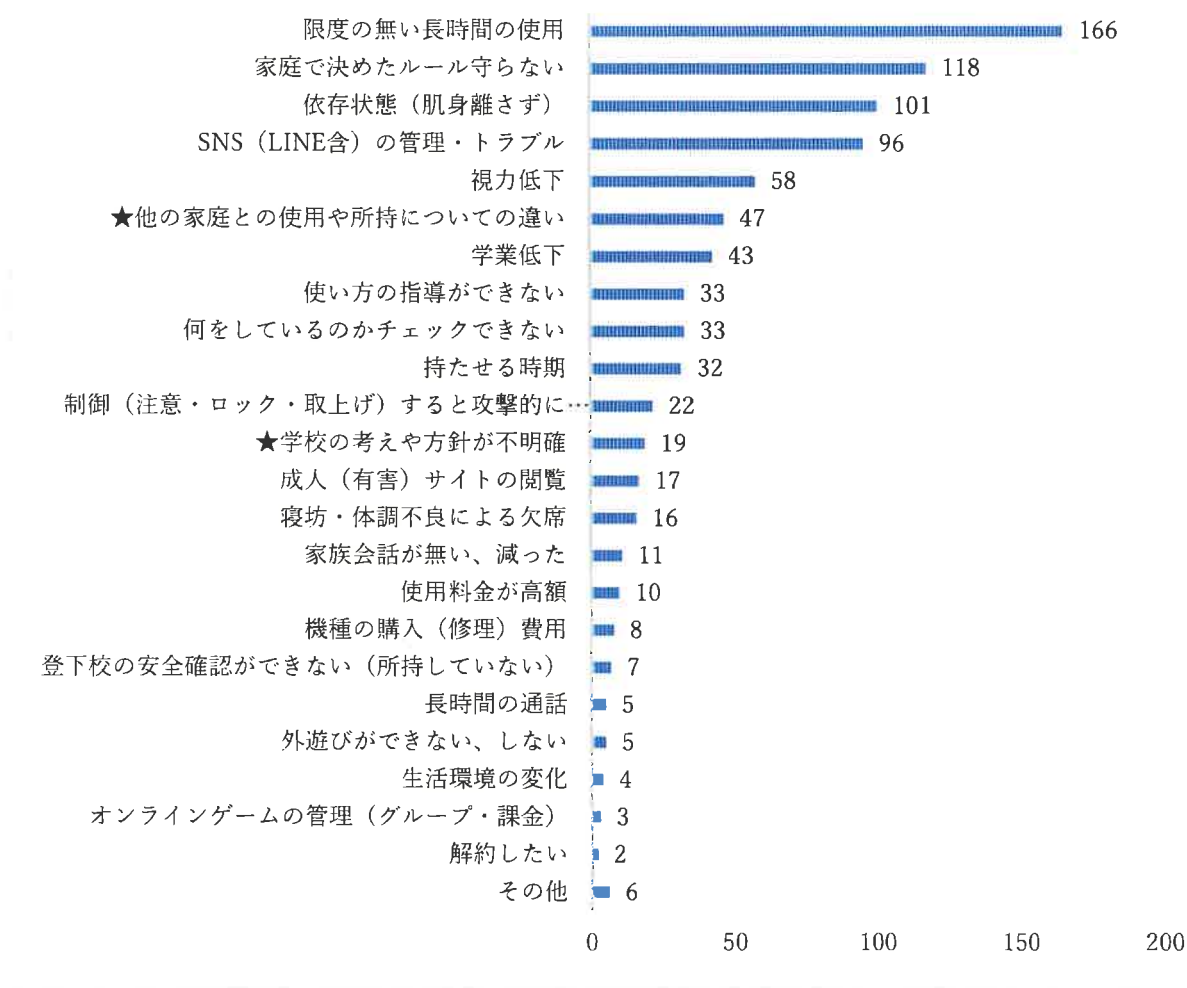
### 4. 携帯端末に係る家庭での困りごとや課題

「所持していない」「所持している」にかかわらず、「携帯端末」について、ご家庭で困っている事象や課題については以下の通りである。（複数回答）

トップの4項目は「所持している」家庭で共通の課題と感じていることがうかがえる。次の★印の「他の家庭との使用や所持について違い」は、所持している時・使用時間・アプリの使用等が各家庭によって違う為に、他者と比較しての悩みである。またもう一つの★印の「学校の考え方や方針が不明確」は、「部活等で遠方に出掛けるが、学校側が持ち込みを禁止しており、連絡が円滑に行えない」「タブレット等による教育が導入されている事と一部矛盾している」「スマホの長時間使用などダメだと言う割には家庭に全て丸投げ」「持っていない児童への配慮をして頂きたい」という学校での指導に対しての課題や要望も寄せられた。また中には「契約を解除したい」というレベルまで困っている家庭もあることがうかがえる。

一方で「持たせる時期」「登下校の安全確認ができない」といった意見は現在所持していない家庭ならではの課題となっている。

「その他」少数意見には、「親としてどのように管理して良いのかがわからない」「子供が正しい“情報”を把握できていない」といった意見であった。



上記による今年の『携帯端末等に関する実態調査』からは、「所持している」家庭で発生している事象は「一部の問題」だけではなく、時代背景からも今後はより小中学生までの低年齢が所持していくことが見込まれる為に「全体的な問題」になる可能性を秘めている。家庭・学校教育を通して子供たちが事件・事故に巻き込まれないように「携帯端末の正しい使用に慣れる」ようにしてあげたいものである。